

「中高一貫教育」の概要について

1 制度導入の背景

従来の中学校・高等学校の制度に加えて、生徒や保護者が6年間の一貫した教育課程や学習環境の下で学ぶ機会をも選択できるようにすることにより、中等教育の一層の多様化を推進し、生徒一人一人の個性をより重視した教育の実現を目指すものとして、中央教育審議会第二次答申の提言を受けて、「学校教育法等の一部を改正する法律」が平成10年6月に成立し、平成11年4月より、中高一貫教育を選択的に導入することが可能になった。

2 中高一貫教育の実施形態

中高一貫教育については、生徒保護者のニーズに応じて、設置者が適切に対応できるように次の3つの実施形態がある。

(1) 中等教育学校

一つの学校として中学校・高等学校にあたる、6年間の一体的な教育を行う。

公立の中等教育学校の入学者選抜については、学力検査を行わない。

(2) 併設型

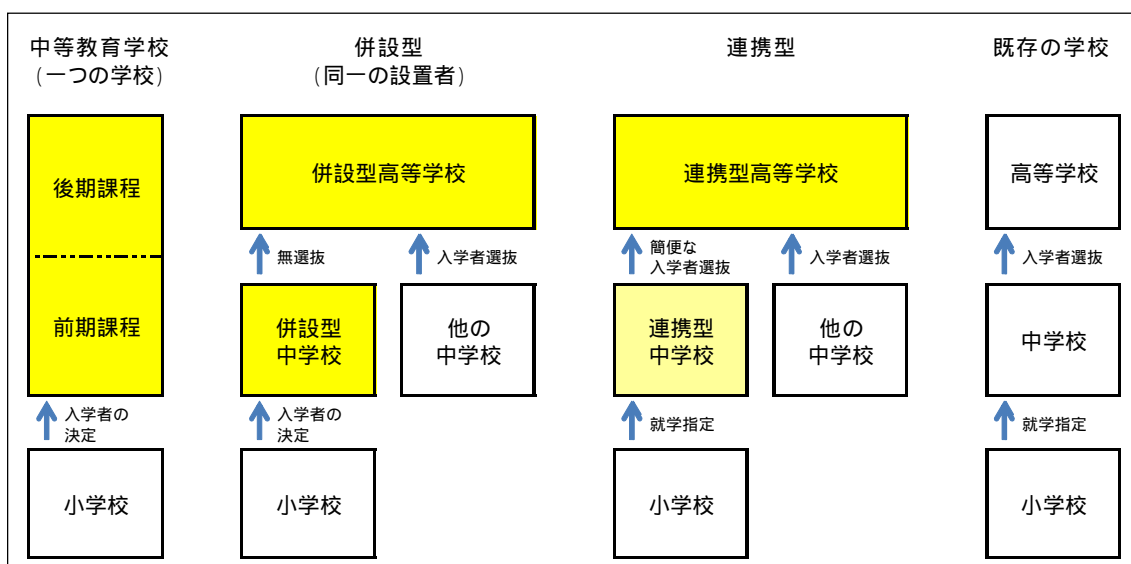
(1)よりも緩やかな形態であり、同一設置者が中学校と高等学校を併設し、接続した教育を行う。

公立の併設型中学校の入学者選抜については、学力検査を行わない。また、併設型高等学校においては、当該高等学校に係る併設型中学校の生徒については入学者選抜を行わない。

(3) 連携型

設置者が異なる場合であっても実施することができるように(2)よりも更にゆるやかな形態で、中学校と高等学校が、教育の課程の編成や教員・生徒間交流等の連携を深める形で中高一貫教育を実施する。

連携型高等学校における入学者選抜は、設置者間の協議に基づき、連携型中学校の生徒については、調査書及び学力検査の成績以外の資料により行うことができる。



3 教育課程の特例

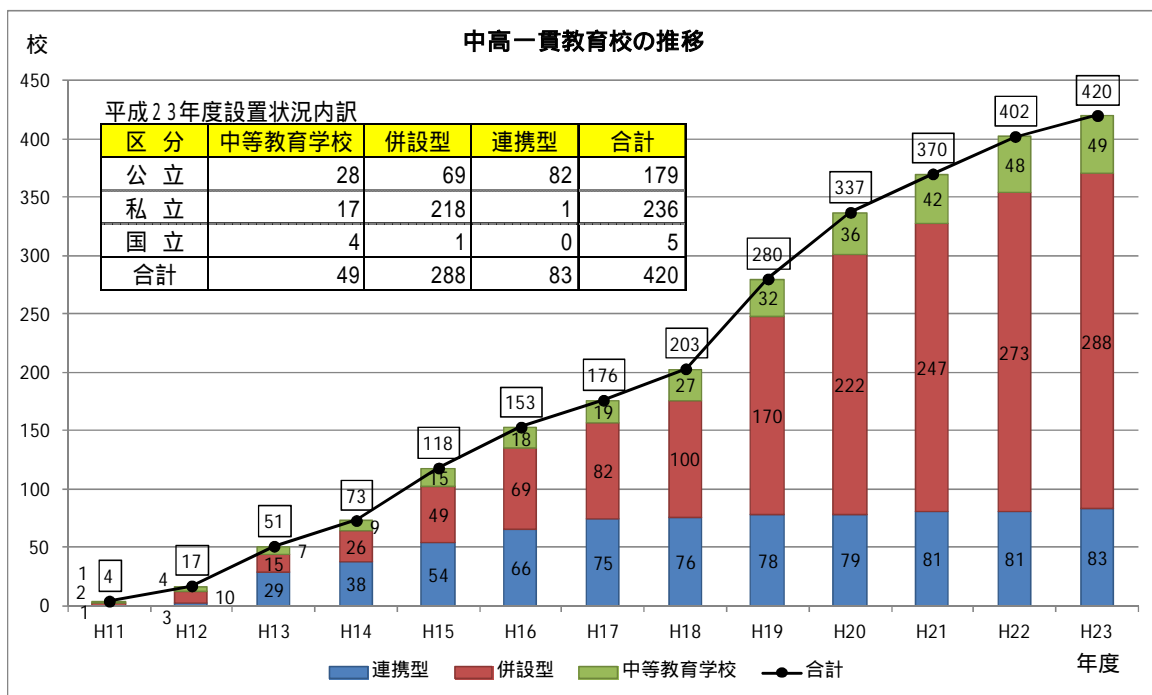
現行制度において、中高一貫教育校においては、以下の教育課程の特例が設けられている。

中学校段階における選択的教科による必修教科の代替（年間70単位時間内）
 中学校段階における各選択教科の授業時数の拡大
 普通科の高等学校段階における学校設定教科・科目について卒業に必要な修得単位数に含めることのできる単位数の上限（20単位 36単位まで拡大）
 中学校段階及び高等学校段階における指導内容の移行
 ）中学校段階と高等学校段階における指導内容の一部を相互に入れ替え
 ）中学校段階の指導内容の一部を高等学校段階へ移行
 ）高等学校段階の指導内容の一部を中学校段階へ移行し、高等学校段階で再度履修しないことができる。
 中学校段階において、特定の学年において指導することとされているものの一部を他の学年に移行し、当該特定の学年で再度履修しないことができる。（H24年度～）

- 1 については、平成24年度からの新学習指導要領の実施により、選択教科の授業時数の定めがなくなるに伴い廃止された。
- 2 については、平成23年度までは30単位まで。
- 3 , については、中等教育学校、併設型中学校・高等学校のみ

4 全国の中高一貫教育の現状

中高一貫教育が導入可能となった平成11年に4校設置され、平成23年4月現在では全国で420校設置されている。公立の中高一貫教育校が設置されている都道府県は44都道府県であり、そのうち41都道府県においては複数校が設置されている。



文部科学省調べ

5 宮城県における中高一貫教育の状況

(1) 県立中高一貫教育校の設置状況

連携型 志津川高等学校及び南三陸町立志津川中学校，戸倉中学校，歌津中学校

(平成15年度～)

併設型 古川黎明中学校・高等学校(平成17年度～)

併設型 仙台二華中学校・高等学校(平成22年度～)

(2) これまでの経過

年 月	経 過
平成9年 3月 6月	「みやぎ新時代教育ビジョン」策定 今後の学校教育を先導する主要なプロジェクトの一つとして，中高一貫・連携教育システム推進事業が盛り込まれる。 「宮城県中高一貫・連携教育構想検討委員会」設置 本県中等教育の一層の充実を目指し，中学校と高校が緊密に連携・共同するシステムを構築し，ゆとりと個に応じた教育を推進するため検討。
平成10年 1月	「宮城県中高一貫・連携教育基本構想検討報告書」 本県における中高一貫教育校の理念や今後の方向性について報告。 文部省「中高一貫教育実践研究事業」の指定〔志津川地域，川崎地域〕 県の指定〔岩出山地域，栗駒地域〕
平成12年 1月	「宮城県ではこのような中高一貫教育をめざします」パンフレット発行 中高一貫教育の目指す教育や気を付ける点などの「基本的な考え方」を示し，県民に御意見をいただきながら，中高一貫教育について具体的なあり方を検討。
平成13年 3月	「県立高校将来構想」の策定 生徒の多様化，中学校卒業生数の減少など，本県の高校教育の抱える課題に対応し，魅力ある学校づくりを推進するための施策の一つとして中高一貫教育及び中高連携教育の推進を盛り込む。
平成14年 4月 8月 10月	「志津川・歌津（現南三陸町）連携型中高一貫教育」の試行 古川女子校を「併設型中高一貫教育実践教育校」に指定 志津川・歌津町教育委員会と県教育委員会との間で協定を締結
平成15年 1月 4月	古川女子校への「併設型中高一貫教育校」設置の発表 「志津川・歌津（現南三陸町）地域連携型中高一貫教育」本格実施
平成16年 1月 4月	連携型入試の導入・実施〔面接（口頭試問含む）・作文・調査書〕 併設型中高一貫教育校の開設準備担当を古川女子校に設置
平成17年 1月 4月 10月	古川黎明中学校入学者選抜（適性検査）の実施 併設型中高一貫教育校「宮城県古川黎明中学校・高等学校」開校 第二女子高校の併設型中高一貫教育校への移行を発表
平成19年	「中高一貫教育連絡調整会議」設置，運営
平成21年 4月	第二女子高校に開設準備組織設置

平成 22 年 3 月	「新県立高校将来構想」策定 連携型の高校入試の在り方や学習意欲の喚起等のほか、現設置校における成果を検証することを盛り込む。
平成 22 年 4 月	併設型中高一貫教育校「宮城県仙台二華中学校・高等学校開校」
平成 24 年 6 月	平成 25 年度県立中学校入学者選抜から仙台二華中及び古川黎明中の募集定員拡大の決定（現行 80 名 105 名）

(3) 併設型中学校の出願倍率の推移

学校	定員	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
古川黎明中	80	5.60	3.86	3.69	3.14	3.16	3.43	2.85	3.10
仙台二華中	80						14.96	10.03	7.65

(4) 各学校の設置状況等

県内の設置校数内訳

区分	中等教育学校	併設型	連携型	合計
公立	1	2	1	4
私立	1	7	0	8
国立	0	0	0	0
合計	2	9	1	12

設置状況

() 公立

実施形態	設置者	学校名	設置場所	設置年度	課程・学科	中学校定員	設置形態	学校の特色
連携型	南三陸町	志津川中学校 戸倉中学校 歌津中学校	南三陸町	H15	全日制 普通科 情報ジ ネス科		既設の3中学校 と既設の高等学 校の連携	基礎学力の向上(中高教員の相互乗り入れ授業(英語科・数学 科)、6年間のシラバス、つなぎ教材、サマーチャレンジテストや CRTテスト(共通到達度テスト)の実施・分析) 一人一人の個性の伸長(進路指導情報交換、進路講演会、進 路ノートの活用、就業体験活動等) 社会性の育成(学校行事、部活動、生徒会の連携、地域清掃 活動等)
	宮城県	志津川高等学校						
併設型	宮城県	古川黎明中学校	大崎市	H17	全日制 普通科	80 105	既設の高等学校 に新設の中学校 併設	6年間一貫した効果的カリキュラムで、少人数指導、45分7時 間授業、特色ある教科、「黎明土曜塾」等による創造力の高い確 かな学力の育成 キャリア教育、総合学習、きめ細かな進路指導による自主・自 立の精神の育成 「黎明田畑」、異文化交流、ボランティア活動等による共生の心 の涵養
		古川黎明高等学校						
併設型	宮城県	仙台二華中学校	仙台市	H22	全日制 普通科	80 105	既設の高等学校 に新設の中学校 併設	豊かな心と高い知性をもち、進取の気風と創造性にあふれ、社 会のリーダーとして、我が国や世界の発展に貢献できる人間を育 成 一人一人の学が意欲に応えるカリキュラム 「地球環境」をメインテーマとして探求的に学ぶ「インターナシ ョナルスタディ」、「サイエンティフィックリサーチ」、「キャリアスタ ディ」、中学校での特色ある教科「シンキングメソッド」の設置 国際交流、海外研修、東北大学及び宮城教育大学との連携
		仙台二華高等学校						
中等教育 学校	仙台市	台青陵中等教育学校	仙台市	H21	全日制 普通科	140	市立高等学校再 編計画に基づ き、中等教育学 校を新設	普通科男女140名、1クラス35名 6年間を2年ごとの3期に分けて、高い知性と豊かな教養を育て る

() 私立

実施形態	設置者	学校名	設置場所	設置年度	課程・学科	中学校定員	設置形態	学校の特色
中等教育学校	学校法人仙台育英学園	秀光中等教育学校	仙台市	H15	全日制普通科	120	既設の中学校と既設の高等学校の1コースを統合して中等教育学校を設置	様々な分野で国際的に活躍できる人材の育成
併設型	学校法人古川学園	古川学園中学校 古川学園高等学校	大崎市	H20	全日制普通科	80	既設の高等学校に新設の中学校を併設	目指す学校像 「生徒の進路希望を実現させる学校」、「豊かな知性と感性が向上する学校」、「異年齢集団の中で、主体性・協調性の高い生徒を育てる学校」、「国際的な視野を育てる学校」、「地域との相互理解を図る学校」
併設型	学校法人宮城学院	宮城学院中学校 宮城学院高等学校	仙台市	H21	全日制普通科	160	既設の高等学校に既設の中学校を併設	福音主義のキリスト教に基づき教育基本法及び学校基本法に従い女子に対して中高一貫教育を行う
併設型	学校法人聖ウルスラ学院	聖ウルスラ学院英智中学校 聖ウルスラ学院英智高等学校	仙台市	H21	全日制普通科	70	既設の高等学校に既設の中学校を併設	独自の中高一貫教育(小・中・高)を建学の精神に基づいて行う
併設型	学校法人聖ドミニコ学院	聖ドミニコ学院中学校 聖ドミニコ学院高等学校	仙台市	H21	全日制普通科	50	既設の高等学校に既設の中学校を併設	カトリックの愛の精神に基づき、生き方、働き方、学び方を教え、21世紀型のリーダーシップを養成する。
併設型	学校法人白百合学園	仙台白百合学園中学校 仙台白百合学園高等学校	仙台市	H22	全日制普通科	160	既設の高等学校に既設の中学校を併設	宗教教育、福祉教育、国際教育を特色とするカトリック学校
併設型	学校法人尚綱学院	尚綱学院中学校 尚綱学院高等学校	仙台市	H22	全日制普通科	100	既設の高等学校に既設の中学校を併設	難関国公立大を目指す「進学教育」、「国際教育」、「生き方教育」の3つの教育の柱のもと、未来を創るリーダーを育成
併設型	学校法人東北学院	東北学院中学校 東北学院高等学校	仙台市	H22	全日制普通科	300	既設の高等学校に既設の中学校を併設	キリスト教主義(プロテスタント)の男子校で併設型中高一貫教育を掲げている

参 考 資 料

「みやぎ新時代教育ビジョン」(平成9年3月)

第4章 基幹プロジェクト

未来の学校プロジェクト

趣旨：一人一人の子どもがその多様な能力を十分伸長できるよう，教育機会や教育システムの多様化を推進する。

事業・施策	主な内容	実施主体
中高一貫・連携教育システム推進事業	中等教育の改革を先導する中高一貫構想の推進 中高連携システムの整備	県教育委員会

「宮城県中高一貫・連携教育基本構想検討報告書」(平成10年1月)

【中高一貫教育の理念】

- ・ゆとりと継続性を生かし，本県においては以下の4点の教育理念に基づいた教育を進めることが望ましい。

個性に応じた教育の展開	基礎・基本の習得
主体的な学び手の育成	豊かな人格の育成

【今後】

- ・中高連携教育については，県内各地域で実現可能な内容から速やかに具体化されることが望ましい。
- ・中高一貫教育については，本県においても導入することが望ましい。その際，新たな制度の導入であり，内容，方法等を検証，評価しながら進める必要がある。

「宮城県ではこのような中高一貫教育をめざします」パンフレット (平成12年1月)

【目指す教育】

- ・ゆとりの中で一人一人の個性に応じた教育を行います。
- ・6年間の計画的・継続的な指導により，基礎的な学力を身に付けるようにします。
- ・様々な体験や研究を行い，主体的に学ぶ力を養います。
- ・6年間にわたる年齢の子どもたちによる活動で，豊かな人間性を養います。

【気を付ける点】

- ・小学生が受験競争に巻き込まれないように，入学者を決めるのに学力試験は行いません。
- ・大学受験のための学習にかたよらず，基礎学力を身に付けることや，体験学習，課題研究を大切にします。

- ・いろいろな学習内容を用意し，生徒の様々な進路に対応するとともに，他の学校に進路変更を希望する場合は十分配慮します。
- ・6年間の学校生活の中で，いわゆる中だるみが生じないように，段階ごとに目標や課題を設けます。

「県立高校将来構想」(平成13年3月)

第2章 生徒の多様な個性や特性に対応した魅力ある高校づくりの推進

4 中高一貫教育及び中高連携教育の推進

6年間のゆとりある学校生活の中で，子ども一人ひとりの個性や能力を伸ばすために中高一貫教育を導入し，県内に複数の中高一貫教育校を設置することで，学校の選択幅の拡大を図ります。

また，中高を通じて継続的・系統的な指導を行い，中学校と高校の教育の接続を円滑にするために，中高連携教育の普及を推進します。

「新県立高校将来構想」(平成22年3月)

第4章 社会の変化に的確に対応した学科編成・学校配置の考え方

1 学科等の在り方 (4) その他の学科・学校等 中高一貫教育校

中高一貫教育は，従来の中学校・高校の制度に加えて，生徒や保護者が6年間の一貫した教育課程や学習環境の下で学ぶ機会をも選択できるようにすることにより，中等教育の一層の多様化を促進するものとして，平成11年度から導入可能となったものです。県内の公立学校においては，連携型中高一貫教育校が1校，併設型中高一貫校が1校，中等教育学校が1校設置されており，平成22年度には，さらに1校の併設型中高一貫校が開校する予定です。

連携型の中高一貫校では，中学校・高校の互いの教員の相互授業の実施による研修の充実や，連携した課外活動を通じた異年齢との交流が進んでいますが，連携型の高校入試の在り方や学習意欲の喚起等の点で，今後さらに検討していきます。

併設型については，中学校に入学した生徒が，まだ高校を卒業していないため，今後の成果を検証していきます。

今後の中高一貫教育校の設置の検討に当たっては，現設置校において中高一貫教育本来の趣旨に則った様々な取組を積極的に進めつつ，その成果を検証した上で見極めていきます。